

Movie Review 69 #シルミド

『#シルミド』(2003年、カン・ウソク監督)をamazon primeで視聴した。

1968年、北朝鮮による大統領府襲撃未遂事件が起こる。1971年、それを受けた韓国政府は報復として金日成暗殺計画を立案する。死刑囚たちを集めて、シルミ島で特殊工作員(684部隊)として過酷な訓練を受けさせる。しかし、国際情勢の変化(南北融和)により作戦は中止された。このときには戸籍も抹消され、成功しても国家に抹殺される運命にあったのだ。長期間にわたり隔離され続ける中で、国家から存在を抹消されるという情報を取得した24名の隊員が反乱を起こす、という物語である(事実+フィクション)。

なお、映画では部隊が死刑囚で構成されているように描かれているが、実際には軍がスカウトしたのは一般の民間人であったそうだ(そのため遺族から名誉棄損で訴えられている)。本作は、国家の理不尽さと人間の葛藤を描きながら、忘れられた若者たちの悲劇を伝える作品となっている。バスを乗っ取って大統領官邸に乗り込む途中、韓国軍と対峙する。国家は人質を含めて反乱部隊の殲滅を図るが、反乱軍は人質を逃がして壮絶な最後を遂げる。息詰まる2時間15分であった。

シルミド事件は、1971年8月23日に韓国において発生した反乱事件である。北朝鮮への派遣のために編成された特殊部隊の兵士らが処遇への不満から反乱を起こし、最終的には韓国軍及び警察によって鎮圧された。

事件の経緯

部隊創設

1968年、北朝鮮による大統領府襲撃未遂事件が起こる。生き残った捕虜が韓国大統領朴正熙の暗殺が目的であることを供述し、朴は激怒して事件への報復措置を取ることを決心した。

朴政権は事件の報復として直接的な軍事侵攻を検討したが、米国の援助が得られなくなり、北進を断念せざるを得なかった。それでも朴政権は、特殊部隊を創設し金日成暗殺計画を立案する。隊は編成年月の「68年4月」から「684部隊」というコードネームで呼ばれた。北と同じ31名の隊員からなる部隊は、シルミ島で過酷な訓練を重ね、北への侵入・金日成殺害の命令が下る日を待った。

南北融和と待遇悪化

1971年4月に北朝鮮が統一会談を提案し、7月には南北共同声明が発表され、

終に計画は撤回、部隊は存在しない事にされた。しかし、機密保持のため隊員が島を出ることは認められず、目的を見失った訓練が中止されることもなかったため、事実上幽閉された隊員らの不満は増大していった。

反乱

1971年8月23日、684部隊の24名の隊員が反乱を起こし、教育隊員を殺傷した。シルミ島を脱出して仁川に上陸した隊員は、バスを乗っ取って大統領への直訴（劣悪な待遇の改善など）のために青瓦台へ向かった。

彼らは途上で軍・警察と交戦しつつ、ソウル市内に入って2台目のバスに乗り換えた。しかし、路上において銃撃戦に発展し、最期は手榴弾で自爆した。これにより反乱を起こした隊員のうち20名が死亡し、生き残った4名も軍法会議で死刑判決を受け、1972年に銃殺刑が執行された。

見直し

この事件はその後韓国の軍事政権下では長く隠蔽されてきたが、民主化後に資料が明らかになり、2003年本作が制作された。

敗戦後に分断を免れた日本。かたや分断が続く朝鮮半島。「戦争を知らない子供たち」の一人として幸せを噛みしめたい。

評価：★★★★★